

一般国道106号宮古地区（箱石^{はこいし}～達曽部^{たつそべ}）における
直轄調査結果等の送付について

この度、一般国道106号宮古地区（箱石～達曽部）における直轄調査結果がまとまり、岩手県にその結果を別添のとおり送付したことをお知らせします。

調査結果については別添のとおりです。

発表記者会

岩手県政記者クラブ、宮古記者クラブ、東北専門記者会

お問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 三陸国道事務所 電話：0193-62-1711（代表）

副 所 長 おやまだ かつらお
 小山田 桂 夫 （内線204）

調査第一課長 まつむら ひでお
 松村 秀男 （内線451）

直轄調査結果概要書

国道106号 宮古地区(箱石^{はこいし}～達曽部^{たっそべ})

東北地方整備局 三陸国道事務所
令和3年2月26日

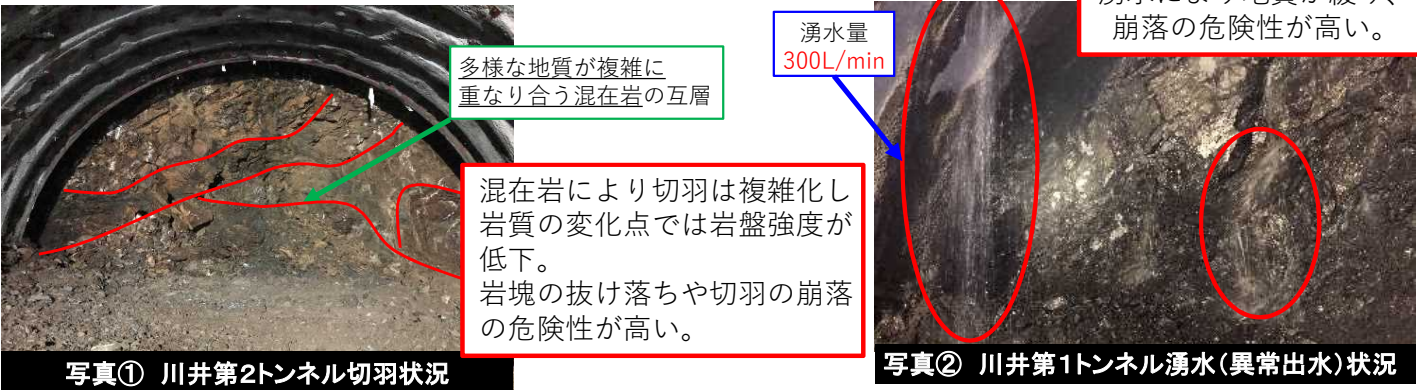
一般国道106号宮古地区(箱石～達曽部)技術的課題のまとめ

- 当該区間は急峻な山地と谷地形からなり、その多くはトンネルにより通過するルート計画である。
- 直轄調査結果としては、①不連続で割れ目の多い混在岩をトンネルで通過することで、複雑な地質の変化に伴う掘削中の岩塊の抜け落ちや地山変状に伴う切羽の崩落が想定されるとともに、②湧水を伴う破砕帯をトンネルで通過することで、湧水による地質の緩みにより切羽や天端の崩落などの危険性が想定される。
- 以上より、対策案として切羽前方探査や適切なモニタリング、混在岩や破砕帯・湧水に対する安定対策など、**地山状況に応じた迅速な技術的判断や高度な技術力を活用することにより事業実施が可能**となる。



資料:地質図Navi(国立開発法人産業技術総合研究所,地質調査総合センター)、20万分の1地質図幅

<隣接工区におけるトンネル施工例>

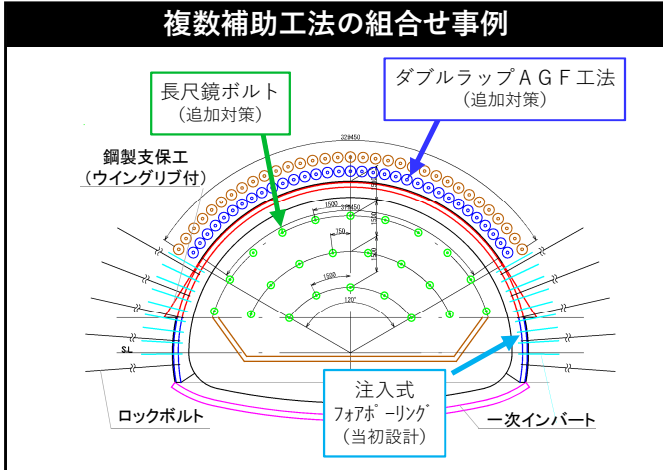


①不連続で割れ目の多い混在岩をトンネルで通過

- <想定リスク>
- ・トンネル断面の左右で地質が異なるなど地質が一様ではないため、トンネル掘削による岩塊の抜け落ちや地山変状により、切羽の崩落が想定される。
- (事例) 川井第2トンネル (写真①) 等

②湧水を伴う破砕帯をトンネルで通過

- <想定リスク>
- ・破砕帯部では湧水を伴う場合が多く、湧水による地質の緩みにより、切羽や天端の崩落が想定される。
- (事例) 川井第1トンネル (写真②)、下達曽部トンネル 等



参 考 資 料

国道106号 宮古地区道路技術検討会

岩手県

一般国道106号宮古地区(箱石^{はこいし}～達曽部^{たつそべ})における検討結果

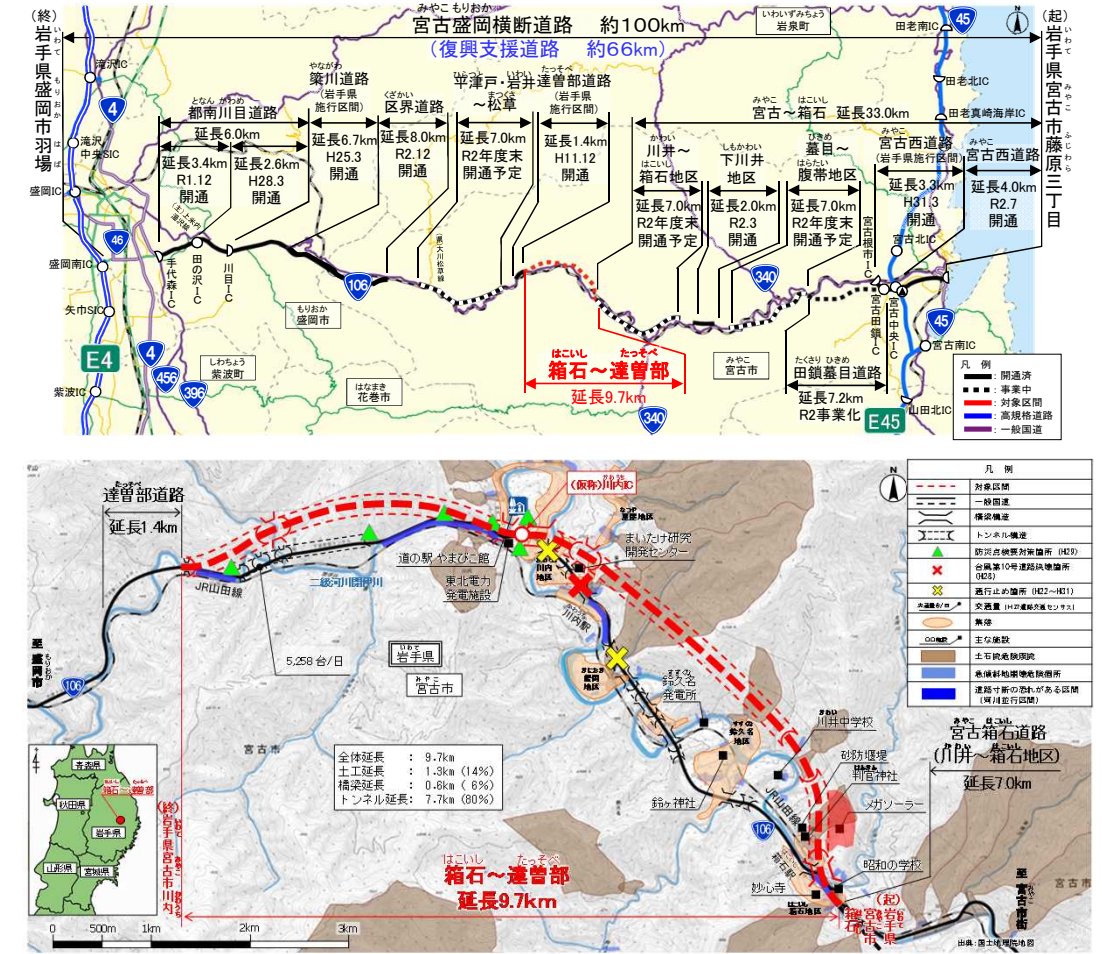
【岩手県における検討経緯】

- 平成28年 8月 台風第10号災害により国道106号で11日間の全面通行止めが発生
⇒被災区間の防災機能強化に向けた調査を開始
- 平成30年 9月 第1回国道106号宮古地区防災対策検討協議会
- 平成31年 1月 第2回国道106号宮古地区防災対策検討協議会
⇒有識者と国を交えて、国道106号宮古地区における現状と課題や整備の必要性を整理し、防災上の課題が集中している根市～墓目、箱石～達曽部の2区間についてルート帯を検討
- 平成31年 4月 国において「直轄による権限代行実施の検討を行うための調査」に着手
- 令和元年 8月 地元説明会開催による地域住民へのルート帯案の提示
⇒ルート帯の合意形成を図り、ルート帯を決定
- 令和元年12月 第1回国道106号宮古地区道路技術検討会
- 令和2年 2月 第2回国道106号宮古地区道路技術検討会
⇒有識者と国を交えて、詳細ルート・構造の検討および決定
⇒根市～墓目間（田鎖墓目道路）については、国において技術的課題を検討した結果、事業実施には高度な技術力が必要とされることを確認
- 令和3年 2月 第3回国道106号宮古地区道路技術検討会
⇒箱石～達曽部間について有識者と国を交えて、詳細ルート・構造の検討および決定（変更）
⇒箱石～達曽部間については、国において技術課題を検討した結果、事業実施には高度な技術力が必要とされることを確認

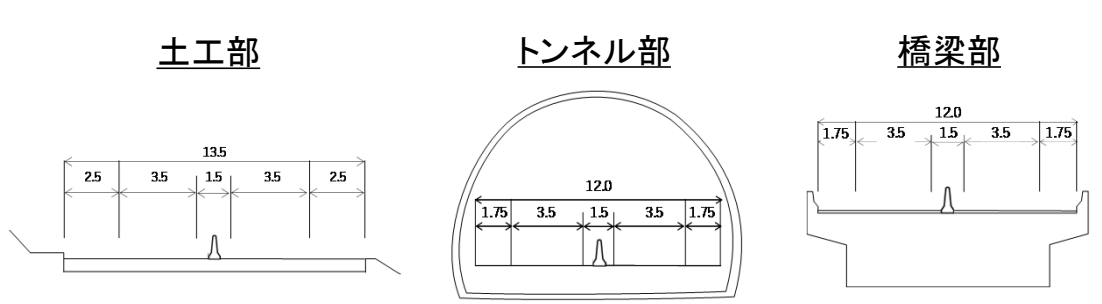
【求められる機能】

- ①自然災害に強いネットワークの確保
災害時の交通障害や道路寸断による広域迂回を回避し、自然災害に強い道路ネットワークを確保することが必要。
- ②三次救急医療施設へのアクセス性の向上
宮古地域には三次救急医療施設がなく、脳梗塞などの重篤患者は約100km離れた盛岡市へ約2時間かけて救急搬送しており、搬送時間短縮によるアクセス性の向上が必要。
- ③輸送時間の速達性・定時性の確保
宮古市では水産業が盛んだが、輸送ルートである国道106号は急峻な山間部を通過するため時間を要し、輸送時間の速達性・定時性の確保が必要。

【ルート・構造案】



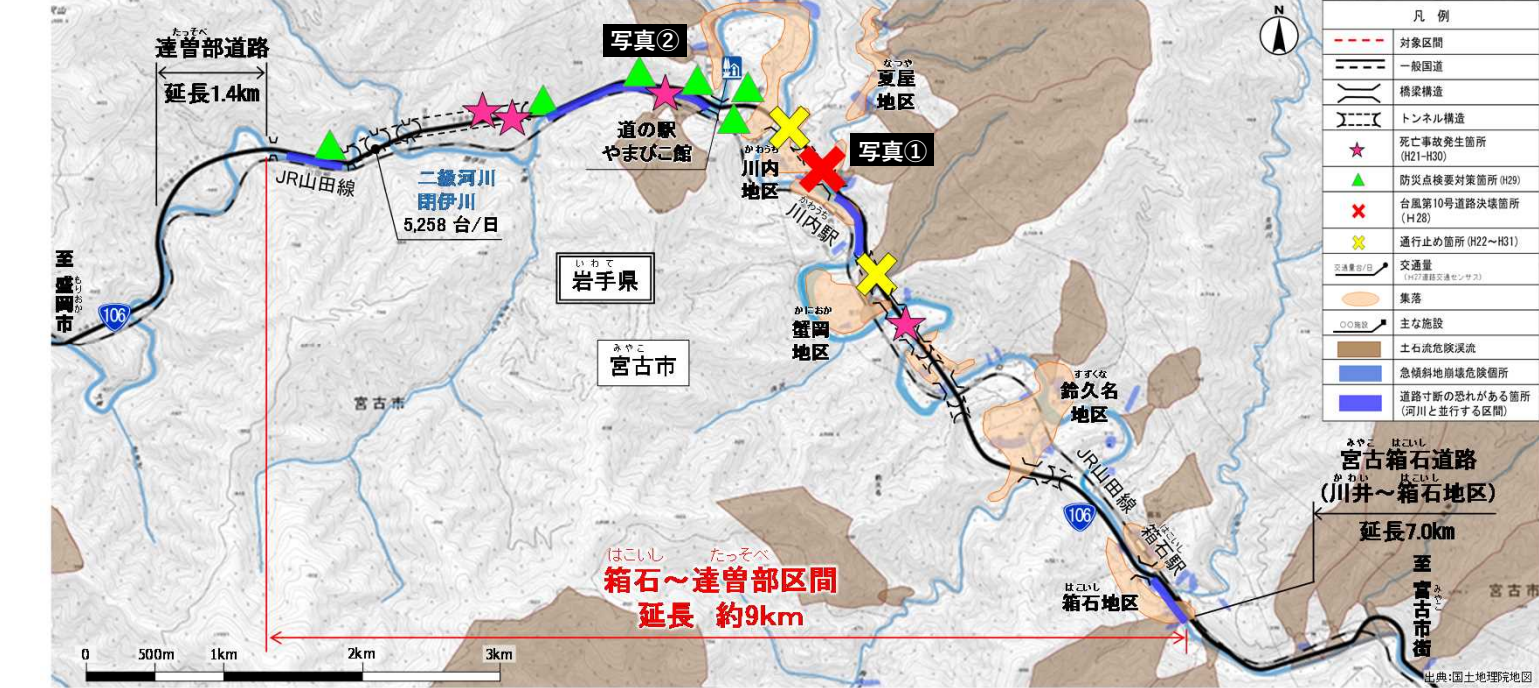
【標準横断面図】



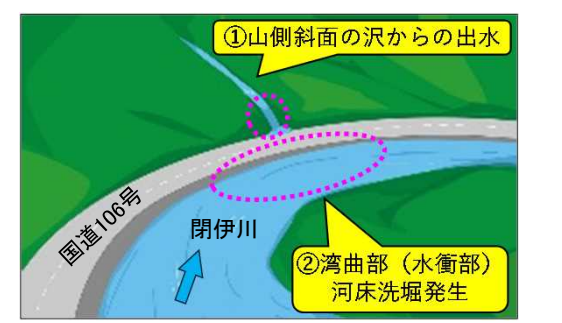
求められる機能 ①自然災害に強いネットワークの確保

- 当該区間では急峻な地形や道路寸断の恐れがある箇所(河川と並行する区間)が多数存在し、災害が発生するリスクが高い。
- 平成28年の台風10号では、道路崩落に伴う全面通行止め(最長11日間)が発生。国道106号は、災害発生時に代替路がないため、通常時の約2倍の距離と時間を要する広域迂回が発生。
- 現道の道路寸断による災害時の広域迂回を回避し、自然災害に強い道路ネットワークの確保が求められる。

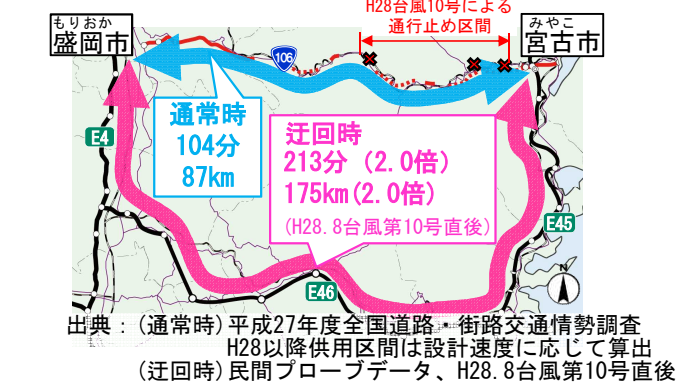
《国道106号現道区間の状況と主な被災箇所》



《河川並行区間の被災模式図》



《災害時の広域迂回》



《平成28年8月台風10号被災状況》



《河川並行区間の被災事例》

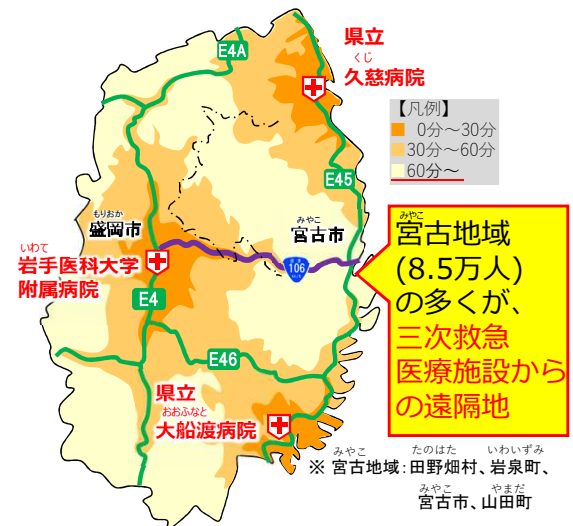


求められる機能 ②三次救急医療施設へのアクセス性の向上

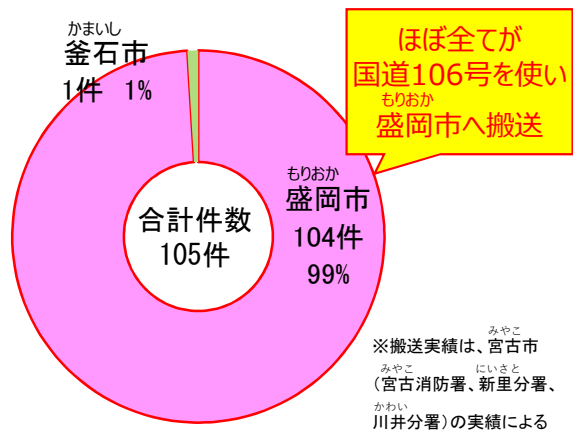
- 宮古地域※には三次救急医療施設がないため、管外搬送が必要な場合のほぼ全てを盛岡市へ依存しており、脳梗塞などの重篤患者は約100km離れた盛岡市(三次救急医療施設)へ、約2時間をかけて救急搬送が必要。
- 三次救急医療施設への搬送時間短縮によるアクセス性の向上が求められる。

※宮古地域：宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村

《岩手県内の三次救急医療施設》



《宮古市内の救急患者の管外搬送先》



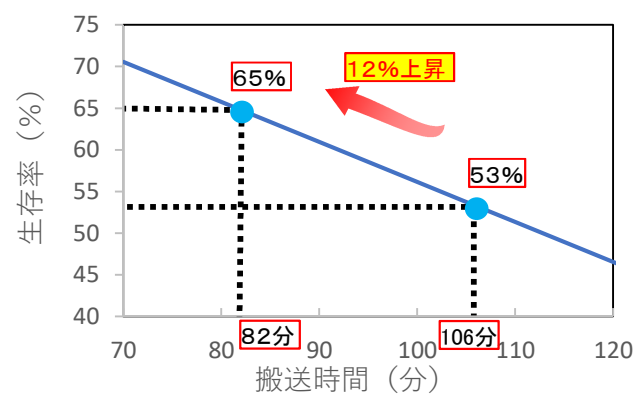
出典：宮古地区広域行政組合消防本部搬送実績(H31)
(重篤患者以外の搬送実績も含む)

《現状の搬送経路》



出典：【現 況】平成27年度全国道路・街路交通情勢調査、H28以降供用区間は設計速度に応じて算出
【整備後】事業中区間・対象区間は設計速度(80km/h)で算出

《搬送時間と生存率(脳梗塞)》



出典：道路整備による救急医療改善効果、
藤本ら(交通工学、2010年9月)

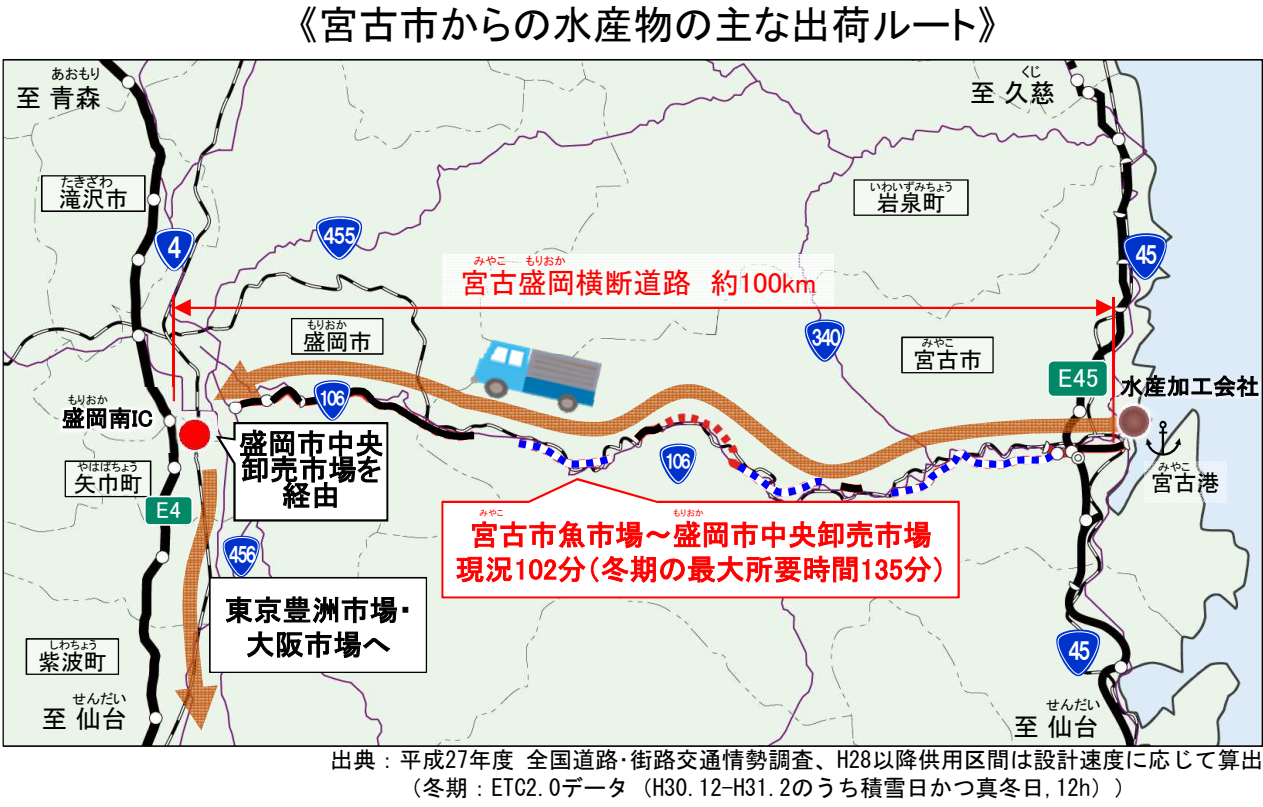
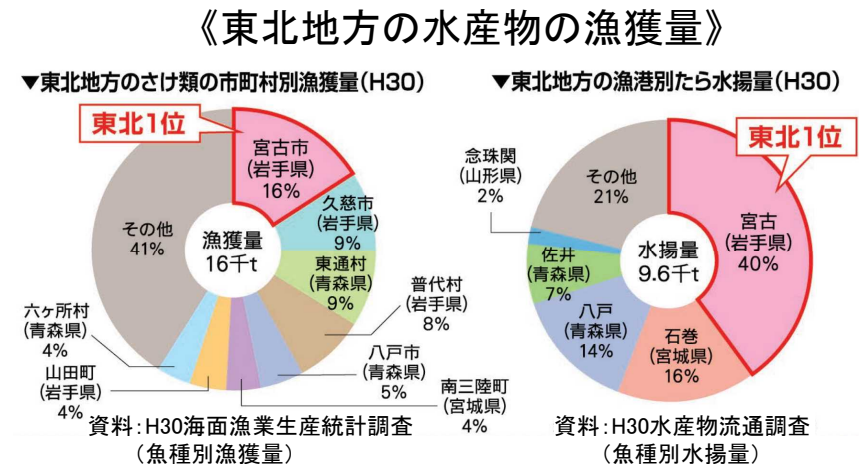
《岩手医科大学附属病院 高度救命救急センターの声》

- ◆ 国道106号の所要時間短縮によって、**救命率の向上が想定される。**
- ◆ 搬送時間の短縮により、**重症患者に対する処置を今までより早く行うことができ、合併症や後遺症の発生を防ぐ可能性が高まる。**

(H29.6 ヒアリング結果)

求められる機能 ③輸送時間の速達性・定時性の確保

- 宮古市では水産業が盛んで、さけやたららの漁獲量等は東北1位となっており、主に盛岡市中央卸売市場を經由し全国に出荷。
- 輸送ルートである国道106号は、急峻な山地部を通り距離も約100kmと時間を要し、出荷のピークである冬期は特に時間を要するため、鮮度維持や加工時間の確保、ドライバーの負担軽減など、輸送時間の速達性・定時性の確保が必要。



《水産事業者の声》

- ◆輸送時間が短縮されれば、より鮮度が高い状態で届けられるため、より高値で買ってもらえ売上拡大に繋がるほか、販路拡大が期待できる。
- ◆盛岡中央卸売市場に搬入される水産品の約7割が宮古方面。※H30年取扱量
- ◆水産品の鮮度維持のほか、ドライバーの労働時間短縮、疲労軽減効果に期待。
- ◆県内へ安定して水産物を流通させる必要があるため、国道106号は水産輸送になくてはならない道路である。

